

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02562

研究課題名（和文）貧困に生きるメキシコの子どもの生活に関する歴史研究

研究課題名（英文）Historical Research on the Lives of Mexican Children Living in Poverty

研究代表者

青木 利夫（Aoki, Toshio）

広島大学・人間社会科学研究科（総）・教授

研究者番号：40304365

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末から20世紀前半のメキシコ市に住む貧困家庭の子ども、孤児や養育放棄された子どもに焦点をあて、これらの子どもたちがどのような生活を送っていたのか、貧困のなかで苦しい生活を強いられている子どもやその家族に対してどのような支援がなされていたのかを、メキシコの関係機関の歴史文書館などに保管されている一次史料などをもとに検討する。そして、国家の福祉政策に潜む問題点を探るとともに、貧困のなかで暮らす子どもとその家族の生きるための戦略を明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、メキシコにおける貧困家庭の子どもなど恵まれない子どもたちの保護や養育、また管理統制に関わる国家の意図や制度を考察した上で、そうした意図や制度のもと、貧困のなかで生きる子どもやその家族がどのように生きてきたのか、その歴史を明らかにするところに学術的意義がある。また、そうした子どもや家族の生活実態とそれに対する支援を検討することは、福祉政策の持つ意義や問題点を検討するとともに、貧困、虐待、児童労働など子どもをめぐる今日的課題を考えるための視座を事例研究を通じて提供する。

研究成果の概要（英文）： This study focuses on poor children, orphans, and abandoned children living in Mexico City from the end of the 19th century to the first half of the 20th century, and examines what kind of life these children led and what kind of support was provided to these children and their families who were forced to live in poverty and hardship, based on primary historical documents stored in the historical archives of Mexico's relevant institutions. The study also explores the problems inherent in state welfare policies and identify strategies for the survival of children and their families living in poverty.

研究分野：メキシコ教育社会史

キーワード：メキシコ 子ども 貧困 福祉 児童労働

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者はこれまで、19世紀末から20世紀にかけてのメキシコにおける公教育の拡大に関して、農村地域に焦点をあてて研究してきた。その研究を通じて、メキシコの農村教育の場が、国家と住民とがそれぞれの権利や価値をめぐってせめぎあう「社会空間」として機能し、教師が国家と住民とのあいだに立つ仲介者としての役割を果たしてきたことを明らかにした。しかし、子どもたち自身が教育や学校をどのようにとらえていたのか、親や教師とどのような関係を取り結んできたのか、学校や教師や家庭が子どもの成長やひとり立ちにどのような影響を与えたのかなどの問題を子ども自身の視点から検討することはできなかった。そこで、これまでの研究をさらに発展させ、子どもと家族の視点からメキシコにおける子どもの福祉と教育の歴史を解明するという課題に取り組んだ。

(2) この研究においては、孤児などの保護するものがない子どもたち、町で物乞いや徘徊をし、ときに犯罪を犯す子どもたちに対する国家の対応について、19世紀後半から20世紀前半の時期に焦点を当てて検討した。こうした研究を通じて、19世紀後半にあらわれてきた国家の義務としての福祉という概念が、20世紀に入って具体化し、19世紀に設置された子どもを収容する施設の整備が本格的に進んでいったことが明らかになった。そして、これまで取り組んできた子どもの福祉と教育の歴史に関する研究をさらに進めるためには、制度や施設などの整備に関わる国家の政策や理念だけでなく、貧困家庭の子どもたちが、実際にどのような環境のなかでどのように生きていたのか、その生活実態を明らかにする必要があると考えるにいたった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、19世紀末から20世紀前半のメキシコの国民国家形成期における貧困家庭の子ども、あるいは孤児や養育放棄された子どもに焦点をあてて、そうした子どもたちや家族の歴史を明らかにすることを目的とする。具体的には、急速に近代化、都市化が進み低所得者層が拡大するメキシコ市において、貧困家庭に生まれた子どもや保護者のいない子どもがどのような生活を送っていたのか、また、貧困のなかで暮らす子どもとその家族が生きるためにどのような戦略を取っていたのかについて、子どもたちの生活という視点から明らかにすることを旨とする。

(2) 貧困のなかで苦しい生活を強いられている子どもやその家族に対して、国家や民間団体などがどのような支援をおこなっていたのかを検討する。また、近代国家あるいは福祉国家の形成過程を「子ども」という視点から捉え直し、そこに潜む問題性を探る。さらに、貧困や虐待、児童労働など、子どもをめぐる今日の課題を考えるための視座を具体的な事例研究を通じて提供する。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、4年間の研究期間を設定し、メキシコにおいて毎年2回の資料調査・収集をおこなうことを予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によって海外渡航が制限されたため、2019年度、2022年度、そして研究期間を延長した2023年のみメキシコ市歴史文書館およびメキシコ国立図書館などにおいて以下のような視点から資料の調査・収集を実施した。また、2020年度、2021年度は、インターネットによる文献および写真の調査収集をおこなった。

子どもや家族をめぐる福祉、労働、犯罪に関わる法律、制度、政策に関する資料。

貧困家庭の子どもや非行行為のあった子どもを収容する施設に関する資料。

貧困家庭の子どもに関する新聞や雑誌の記事。

路上で働く子どもたちの労働や生活の実態に関する資料。

子どもに関わる専門家会議などの記録や専門家による調査記録。

(2) 収集した資料を以下の視点から分析した。

子どもの非行や労働に関して、どのような法律や福祉の制度がつけられたのか。

家庭外や貧困家庭に暮らす子どもに対して、公的機関や民間団体はどのような支援をおこなったのか。

貧困家庭の子どもとその家族は、どのような生活を送り、どのような生き残り戦略をとったのか。

路上で働く子どもたちは、どのような環境のもとで働いていたのか。

4. 研究成果

メキシコの関係機関(国立図書館、国立定期刊行物資料館、メキシコ市歴史文書館など)において、19世紀後半から20世紀前半にかけてのメキシコ市における貧困家庭の子どもに関する資料調査を実施し、貧困家庭の子どもたちが従事することの多かった路上での新聞販売に関する

資料を収集した。具体的には、当時の新聞記事、メキシコ市当局に提出された新聞販売に関わる住民の請願書、路上の新聞販売員に対するアンケート調査に基づく調査記録、定期刊行物販売人が組織する組合の刊行物、雑誌販売人と行動をともしたジャーナリストによる体験記事などである。また、インターネットを通じて、国立人類学歴史学研究所の写真館に保存されている写真を検索し、20世紀前半に、新聞販売、靴磨き、荷物運搬などの活動に従事していた子どもたち、および1910年にはじまる革命の時代に生きた女性や子どもたちを被写体とした大量の写真を手に入れた。さらに、20世紀のなかばに日本の出版社が企画した『世界の子ども』シリーズの出版に向けて集められた世界の子どもたちの作文や手紙を研究しているプループから、メキシコの子どもたちが書いた作文などの提供を受けた。こうして入手した文献、資料、情報を分析した結果、以下のような点が明らかとなった。

(1) 19世紀末から20世紀はじめにかけてのメキシコの福祉政策については、国家と民間団体のどちらが社会的弱者の救済事業を担うのかといった議論がなされるなか、福祉事業を宗教団体をはじめとする民間団体に任せながらも、それを国家が管理統制していくくみがあらわれてきた。さらに、革命以後、生活困窮者に対する公的な援助が、国家の保障すべき国民の社会的権利として認識されるようになり、福祉事業に関与する国家の役割が大きくなった。また、福祉政策が、社会の不安定化を防ぐための社会統制あるいは社会の安全保障という役割をも有していた。その一方で、福祉政策は、貧困に苦しむ家庭にとって、子どもや家族全体の生活を支える生存戦略の選択肢のひとつとなった。

(2) 19世紀には、犯罪を犯した年少者を対象とした少年法のような法律や年少者犯罪専門の裁判所などはなく、実質的には20世紀の革命以降に法制度の整備などの政策が推進された。また、恵まれない子どもたちを収容する施設は植民地時代から存在していたが、独立以後もカトリック教会などの民間団体によって維持されてきた。19世紀なかば以降には、徐々に国家がこうした施設を管理統制するようになり、20世紀前半には乳幼児から青年にいたるまで段階的に保護、教育、職業訓練をおこなう施設が整備されていった。

(3) 貧困家庭においては、多くの子どもが家族の生活を支えるために大人とともに働いていた。メキシコ市のような都市部では、子どもが路上において新聞や菓子などの販売、靴磨き、荷物運搬など、さまざまな労働に従事していた。そして、子どもが路上での労働によって得た収入が家計の支えになると同時に、家族のいない子どもにとっては路上での労働が生きるためのほぼ唯一の手段であった。こうした子どもたちは、路上での労働を通じて同じような境遇の仲間と出会い、そこで友好関係を築くとともに、仕事を覚えて自立していった。

(4) 子どもが路上での労働活動をおこなうためには、仕事を提供する大人の存在が不可欠であり、そうした大人は子どもたちの安い労働力を利用していった。その一方で、生活の苦しい子どもたちに仕事を提供するだけでなく、子どもたちに対するさまざまな支援をおこなっていた。たとえば、定期刊行物の販売人によって組織された組合は、新聞販売に従事する子どもたちに、服や食事あるいは宿泊施設などを提供していた。さらには、宿泊施設において読み書きなどの教育をおこなっていたほか、学校を設置して子どもたちに職業訓練の機会を与えていた。

(5) 革命勃発後に続いた内乱状況のなかで、戦闘に参加する男性に付き従っていく女性が多く、女性が兵站の一部を担っているとともに、場合によってはみずから武器をもち戦闘に加わることもあった。また、その際に子どもを連れていくことも多く、年齢によっては子どももまた戦闘部隊を支えるための仕事を任されることもあった。

(6) メキシコでは、歴史的に子どもが労働に従事することに一定の意義を認める場合が多いが、児童労働の禁止が国際的な潮流となっている現在においても、貧困家庭の子どもたちの多くがなんらかの労働に従事している。また、物乞いなどをしながら路上に暮らす子どもたちも少なくない。そうした子どもたちを支援するNGOなどの民間団体も数多く存在し熱心に活動が続いているが、資金、人材、公的部門との連携など難しい問題を抱えているところも多い。また、子どもが大人とともに働くことを通じて、地域社会に関する知識や習慣あるいは自立するための能力を身につけるという従来からの考え方も根強く残っており、児童労働禁止という主張が国内でも強まってはいるものの、子どもの労働についてはさまざまな議論がなされている。

以上のような研究成果は、学術論文および図書の一部として発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 青木 利夫	4. 巻 29
2. 論文標題 20世紀前半のメキシコ・シティにおける子どもの労働 路上で新聞を売る子どもたち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 欧米文化研究	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/54556	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青木 利夫	4. 巻 26
2. 論文標題 メキシコ・シティにおける「恵まれない」子どもにたいする福祉政策と職業訓練	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 欧米文化研究	6. 最初と最後の頁 43~58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/48872	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 青木利夫
2. 発表標題 『世界の子ども14 ラテンアメリカ編』を読む メキシコを中心に
3. 学会等名 「世界の子ども史」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木利夫
2. 発表標題 メキシコの国家とカトリック教会の対立の歴史 教育の世俗化を中心に
3. 学会等名 比較教育社会史研究会「宗教と世俗化部会」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木利夫
2. 発表標題 公教育に組み込まれる共同体知 二言語文化間教育 (EIB) を中心に
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 教育目標・評価学会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 266
3. 書名 <つながる・はたらく・おさめる>の教育学 社会変動と教育目標	

1. 著者名 樋口映美編、デイヴィッド・セセルスキ、佐藤勲治、青木利夫ほか10名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 228
3. 書名 歴史のなかの人びと 出会い・喚起・共感	

1. 著者名 大越翼、嘉幡茂、小林貴徳、青木利夫、渡辺裕木、井上幸孝	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター	5. 総ページ数 101
3. 書名 「今」に意味を与えるために 近現代のメキシコにおける歴史遺産の資源化に関する考察	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------